

【佐高ミュージアム】

最速の鳥

はやぶさ



佐高所蔵剥製

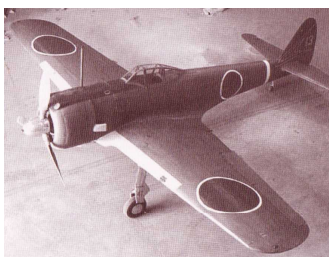


「レッドデータとちぎ」より

ハヤブサは最速の鳥類である。獲物を追いかける際の瞬間速度は**時速200キロ**を超え、時には300キロにも達するという。カラスくらいの大きさで、主な獲物はハト類などの中型鳥類である。獲物を襲うには、いったん急上昇して飛んでいる獲物の上空から**急降下**して空中で捕獲する。栃木県ではごく限られた環境に生息しており、個体数が少ないことから、本県のレッドデータブックでは、「**絶滅危惧Ⅰ類(Aランク)**」に指定されている。佐高所蔵の剥製は、採集地・採集日等は不明であるが、保存状態良好で貴重な標本である。

ところで、ハヤブサは猛スピードで獲物を襲うことから、スピードが命の多くの乗り物にその名が付けられてきた。例えば、第2次世界大戦時の「**一式戦闘機 隼**（はやぶさ）」。「零戦」が日本帝国海軍の主力戦闘機であったのに対して、「隼」は日本帝国陸軍の誇る主力戦闘機であった。また、1958年から2009年まで東京駅と熊本駅を結んでいた「**寝台特急 はやぶさ**」。次いで、2011年3月に運転を開始した「**東北新幹線 はやぶさ**」（最高時速320キロ）。そして、2010年6月13日、地球に無事帰還した「**小惑星探査機 はやぶさ**」（「MUSES-C」）。

「はやぶさ」は、小惑星イトカワの上空でホバリング後、**急降下**し、わずか30秒の着地の間にサンプルを採取する計画であった。その素早さは、まさに急降下して獲物を捕らえる最速の鳥「ハヤブサ」そのものである。ちなみに、小惑星「イトカワ」の名は、日本の「宇宙開発の父」と呼ばれる**故糸川英夫博士**にちなんだものであるが、かつては「一式戦闘機 隼」の開発者でもあったそうである。



「一式戦闘機 隼」



「寝台特急はやぶさ」 「東北新幹線はやぶさ」



「小惑星探査機はやぶさ」